

ソーシャルスキルトレーニングVR



FACE DUO

User's
Voice

vol.1

ひだクリニック

院長 肥田 裕久 先生

ひだクリニックお台場

副院長 木村 尚美 先生

魅力的なプログラムへ
進化していくSST

さまざまな場면을**VR**で再現

リアルな仮想空間で何度でも楽しみながら
社会生活スキルを習得できます。

買い物する場面



注文をとる場面



当院について

優しい心と高い専門性を生かして

心療内科・精神科のクリニックですが、外来だけでなく、精神科リハビリテーション、デイケア、ナイトケアなど多様なケアを行っています。デイケアでは、様々なプログラムを用意していますが、中でも力を入れているのがソーシャル・スキルズ・トレーニング (SST) です。当院ではSSTが支援の共通言語としてあるので、デイケアでは小さな揉め事がありますが大きなトラブルへと発展することは、ほぼありません。例えば、怒りに任せて物を投げたメンバーがいた場合、スタッフだけでなく、周囲のメンバーが自主的に緊急SSTを始めます。まずその場で、感情を表出できたことをほめた上で、「物を投げる代わりに何ができるだろうか」と話し合ったり、謝る練習を一緒にするということが自然にできるようになっています。



ひだクリニック
院長 肥田 裕久 先生

導入のきっかけ

参加者からの積極的な意見をうけて



わたしたちのクリニックは、精神科リハビリテーションや社会参加、地域医療を中心に据えた医療を行いたいと考えており、様々な患者さんのニーズに対応出来る施設を併設しております。FACEDUOは、デイケアでの活用はもちろんのこと、就労移行支援 co opus (コパス)、訪問看護ステーション すびか、就労継続支援B型事業所 TERRA (テララ) など、患者さんのステージに合わせて活用できると感じています。利用者さんに体験してもらった時に「またやりたい」「面白かった」と言われたのが後押しになり導入しました。

FACEDUOに期待すること

わくわくするSSTが実現

FACEDUOの紹介を受けた当初は、正直「SSTをVRでやるなんて」という気持ちでしたが、お話を伺ってみるとひだクリニックで実施しているプロデュース大作戦に似ているなどと思い、これなら使えるかもという気持ちに変わりました。実際、患者さんに試してもらって皆が楽しそうに体験していて、私が大切にしている「皆が楽しくできるSST」のコンセプトに合っていると感じています。FACEDUOは皆の興味を引いて「SSTのプログラムに行ってみようかな」と感じてもらい易くプログラムの参加率も上がっています。FACEDUOを通じてSSTに苦手意識をもっていた患者さんやスタッフの方が楽しくSSTが出来るようになるとSSTがもっと身近になっていくのではと思います。



ひだクリニックお台場
副院長 木村 尚美 先生

体験者の声

2Dよりも3Dになることで相手の緊張している様子など非言語的な圧なども感じ取れて追体験しているような感覚になりました。普段のSSTだと人の視線が気になったり怖かったりするのですが、VRゴーグルだと目が塞がっているので視線が怖くなく自分でもロールプレイが出来ました。



今までは場面共有するために何度も質問をしなくてはならず疲れてしまう事もありましたが、VRだと状況を鮮明に理解でき、いつもよりSSTがやり易かったです。実践で人とやるのが難しい場合でも、VRがあると自分のペースで練習できるので苦手克服出来ていいなと思いました。実際の場面でも挑戦出来そうな気持ちになりました。



支援者の声

ロールプレイを設定する際、これまでは細かく役割や構成など指示しなくては行けませんでした。FACEDUOだと簡単な指示をすれば開始できます。皆が共通のイメージを持つことが出来るので具体的なアドバイスをすることができ進捗もやりやすく感じました。



これまでのセッションは、途中で飽きて別のところをみている方がいたり、皆の注意を保たせることが難しいと感じていました。VRゴーグルだとVRの世界に集中してもらうことが出来ますし、視点モニター機能でどこを見ているのかを確認できるので皆さんの状況を把握できて助かっています。



「ひだクリニック」での活用事例

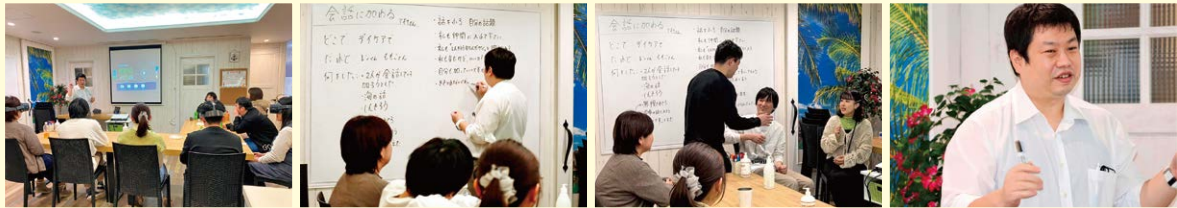


状況体験パート

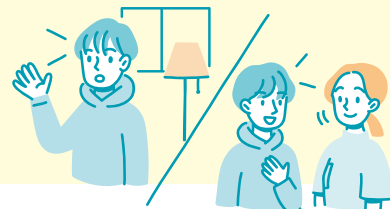
課題抽出

ロープレ

感想・振り返り



状況体験パートをみて場面を共有します。その後、課題を出し合います。(いつ、どこで、どんな時、どんな気持ち、どうしたかったなど)次に、ロールプレイを実施、最後に今日の感想を出し合って終了となります。FACEDUOでは架空の設定を元に話し合っていくので普段考えないような解決策も出てきますし、自分の経験ではないのでグループの成熟度に関係なく進行出来るというメリットもあります。場面設定までの時間が短縮できるので、本題にすぐに取り組める、考える力がつく(ポジティブな思考でみれる)、自分がこういう状況に陥った時の対処法を自然に習得できると感じています。



様々な心理社会教育ツールとして活用しています!

訪問看護での活用場面

Wi-Fi環境があれば、訪問看護での実施も可能です。ご家族とのコミュニケーションを円滑に進めるためのスキルや診察や服薬に関する基礎的なスキルのトレーニングが行えます。



(実際の場面)



訪問看護でのお役立ちコンテンツ

電話で診察予約を早めてもらう



調子がすぐれないために、診察を早めてもらおうとして病院に電話をかける場面を、当事者目線で体験します。

副作用について相談する



新しい薬に変えてから手が震えるようになったことを、診察で主治医に相談する場面を当事者目線で体験します。

家族会での活用場面

ご家族に、当事者目線で体験頂くことで、疾患による社会スキルの低下とそれに基づく行動への理解が深まり、家族の当事者に対する否定的な感情や心理的な負担が軽減できると考えています。



家族心理教育でのお役立ちコンテンツ

口論せずに、相手に同意しないでおく



家族から意見されて腹が立った場面を当事者目線で体験します。

支援者も当事者も一歩前に進める支援ツールが充実

セッション進行ガイド

セッションの進行がセリフで記載されているので、SST初心者でも安心



参加準備シート

SSTに参加するにあたり、参加者の現状を整理するためのシート



詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売 Otsuka

開発・製造

JOLLY GOOD!